

# 放送朝会「先生あのね」 11/2

今日は「先生あのね」というお話です。

今月は「ふれあい月間」と言って、6月と11月の年2回ある特別な月です。

ところで、この「ふれあい月間」の“ふれあい”って、何だかわかりますか？

動物とのふれあい？ 自然とのふれあい？  
いずれも大切ですが、「ふれあい月間」の“ふれあい”とは、特に『心』のふれあいの意味があります。

今月は、「ふじみをよくする運動」をはじめ、授業公開や個人面談、お弁当の日、1・2年生の生活科見学、6年生の宿泊学習など、様々な活動があります。これらに共通することが『心』のふれあいです。

「心」は誰にも見えない。けれど

「心遣い」は見える。

「思い」は誰にも見えない。けれど

「思いやり」は見える。

あたたかい心も、やさしい思いも、行いによっ

てはじめて見える。

という言葉があります。  
心を、目に見える形にしてほしいという願いが込められています。でも、校長先生は、本当に大切なことは、実は、目に見えないものではないかと思っています。たとえ目には見えなくても、目に見えない心を大切にしてほしいと願います。

そして、もし、みなさんの目に見えない心が困った時は、ぜひ、先生や信頼できる大人に、「あのね」とお話をしてください。必ず、みなさんの助けになります。

